

Kanjiru (Art) 展覧会

林 明日美 銅版画 個展



BIOME
KOBÉ, JAPAN

アートギャラリーのようでギャラリーではないー

“A gallery, but not a gallery” をコンセプトにした、神戸元町山手の「BIOME (バイオーム)」(以下「BIOME」) による Kanjiru (Art) 展覧会のご案内となります。

林 明日美 銅版画 個展

「あたたかな闇に旅す」

会 期： 2021年11月20日(土)～28日(日)

時 間： 13:00～18:00(最終日は16:00閉廊)

休 廊： 11月24日(水)

在 廊： Manabu (Edu) 開催と併せて在廊予定。

詳細はホームページ、SNS などでお知らせいたします。

作 品： 約20点(新作約7点)内アニメーション作品1点/冊子2種 /はがき4種を予定

銅版画メゾチントだけの作品展覧会を開催するのは、BIOME では初めて、林明日美氏が第一号です(プロフィールを別紙1にてご紹介)。近年、親しみやすい技法となり、取り組まれるアーティストも増えています。

少しばかり、銅版画について。

木版画は、掘り残した部分を刷り上げて残る画が凸版ですが、銅版画は、凹版技法で、ニードルやビュランと呼ばれる刃物を使用して版面に直接印刻することで、凹部を作ります。そして、線を刻んだ部分にインクを詰めて、刷りあげていきます。

銅が用いられる理由は、軟らかすぎず硬すぎないところ。彫りやすく、刷りにも耐える適度な素材だからといわれています。直接刻む技法(直接法)と、化学薬品を用いて腐蝕によって版をつくるもの(間接法)があります。

林氏が主に取り組んでいるのは、直接法のメゾチントとなります。

「銅版画のメゾチント技法は、究極の闇の芸術だと言われている」と林氏。

冷たく、暗いものではなく、温もりと、あたたかな光を感じるメゾチントをご紹介します。

また期間中に実施予定の Manabu (Edu) でも、その一端をご紹介いただける予定です(別紙2)。

林 明日美 個展、深まる秋からみえる冬の入り口とともに、お楽しみいただきたい展覧会となります。

別紙1

2021年10月吉日

Kanjiru (Art) 展覧会

林明日美 銅版画 個展

「あたたかな闇に旅す」



BIOME
KOBÉ, JAPAN



©林 明日美 2021

アーティストのご紹介

林 明日美 (Asumi Hayashi)

アーティスト

1985年 東京都出身

2009年 武蔵野美術大学 油絵学科版画コース卒業

2011年 武蔵野美術大学大学院 造形研究科
美術専攻版画コース修了

レジデンス

2019.5-6 Dar Slimane Artist Residency / モロッコ

2018.10-11 Mustarinda residency / フィンランド

2017.8 Kunstnarhuset Messen / ノルウェー

賞歴

2015年 『ギャラリーへ行こう 2015』 入選

2014年 『ギャラリーへ行こう 2014』 入選

2012年 『第一回 FEI PRINT AWARD』 入選

2010年 日本版画協会第78回版画展 入選

収蔵

町田市立国際版画美術館

上海半島美術館 / 中国

Hambis Printmaking Museum / キプロス

本件に関するお問い合わせ ▶▶▶

BIOME
(バイオーム)

〒650-0011 兵庫県神戸市中央区下山手通 5-7-15 グローリー山手ビル 101
tel : 090-3945-2040 email : artroom@biomekobe.com